



# FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第40号 2011. 2.17

## FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

## 十和田農場から

### 東京から連れて来ました

平成22年12月16～17日に、動物行動学研究室の松浦先生と十和田農場職員の久保田が白馬を東京からトラックに乗せて連れてきました。

白馬と言っても皆さんが想像する王子様が乗っている白馬とは大きく異なり、体高1mにも満たない89cmと小さくて可愛いミニチュアホースです。名前を「ショッカー」と言い、JRAのマスコットの存在であった可愛い馬を譲り受けることになりました。

12月16日8時に、この日の目的地神奈川県川崎市まで、家畜運搬用トラックで松浦先生と二人で張り切って大学を出発しましたが、この日にかぎって未明からの寒波到来で東北自動車道は盛岡まで凍結していました。運転は慎重になり、東京に着く頃にはすっかり陽も落ちて高速道路からは話題の東京スカイツリーなど、東京の夜景が綺麗に見えていました。気がつくとは何故か知らぬ間に？東名高速自動車道に突入していて、慌てて次のインターで高速道路を降りて折り返し戻ってきました。この日ホテルに着いたのは20時過ぎでした。

12月17日ホテルのある川崎市から馬の引き取り場所の東京都世田谷区のJRA馬事公苑までの距離は約4kmと近くに在り時間に余裕を持って出発しましたが、渋滞に巻き込まれまったく車が進まず、十和田だと5分で着く距離が、1時間過ぎても到着できず約束の時間を過ぎてしまいました。東京は恐ろしいです。馬事公苑に着いたら白くて小さな馬が待っていてくれました。早速トラックに積み込み十和田へ！途中パーキングで馬に水を与えていると、パーキングに駐車している人達が馬を見に集まってきました。十和田に着いたのは20時でした。今回の我々の出張はドタバタ珍道中でしたが、「ショッカー」は疲れも見せず、寒い十和田に着いても驚くことなく落ち着いていました。これから北里大学のマスコットの存在となり、みんなに可愛がってもらえることでしょう。ショッカーは学内の馬術部厩舎に居ます、みなさん遊びに来てください。





## 八雲牧場から

### 平成 22 年度北里大学公開講座八雲牧場視察研修

10月1日～3日の日程で、平成22年度の北里大学公開講座八雲牧場視察研修が行われました。今年度は、視察研修の紹介を八雲町の広報紙に載せて八雲町内からの参加者を募集しました。2日目の研修では、八雲牧場を徒歩で散策したり、職員が講義を行うなどして、十和田からの参加者のみならず、八雲町からの参加者にも八雲牧場の取り組みについて説明を行いました。当日は、天気にも恵まれ、職員との北里八雲牛の焼き肉交流会も大盛況でした。

### 北海道人工授精師大会へ参加

10月20日～21日に帯広市で平成22年度北海道人工授精師大会が開催され、折目が参加しました。研究発表では、受胎率向上に向けた取り組みとして、農協と地元農家との協力関係や、最近増えてきた女性や外国人の人工授精師がどのような問題にを抱えているのかといったアンケート調査の結果など興味深い事例を聞くことが出来ました。

### 釜石市視察

10月12日に来場された釜石市からの依頼出張で、11月28日～30日の日程で久保田、小笠原、小野の3名が釜石市へ出かけ、八雲牧場の日本短角種の飼育方法、草地維持管理方法および水産資源の肥料化に関する説明および意見交換を行い、現地を視察してきました。釜石市の取り組んでいるエコタウン構想には八雲牧場の取り組みが参考になることが多く、今後とも交流を深めていく予定です。

### 北海道草地研究会へ参加

12月7～8日に北海道大学で行われた北海道草地研究会において「有機草地におけるエゾノギシギシ (Rx) の生態的防除法の検討」の演題で小野が口頭発表を行いました。演題は「農薬を使用できない八雲牧場でのエゾノギシギシの防除法」で、2年前より循環型畜産研究会の研究課題として取り組んでいる研究成果です。有機草地に関する発表はまだまだ少なく、これからも試験を継続し、研究成果を公表していくつもりです。

### 青函フォーラム in 函館大

12月12日に函館大学において青函フォーラムが開催されました。このフォーラムは東北新幹線の青森延伸を記念して「道南と青森県から耕畜連携を柱とした循環型農業を考える。」という演題で行われました。北里大学は循環型畜産の現状を嶋教授が発表され、その実践例として「八雲牧場の取り組み」について小野が発表しました。前日11日には関係者による八雲牧場の視察も行われ、試食会では北里八雲牛肉が大変、好評でした。

(編集担当：畔柳 正)